

「修行」とは、悟りを得るために仏教の教えに基づいた実践活動を行うことです。実践活動にもいろいろあります。

最も有名な行が、滝行や、断食かもしれません。修行の中でも、誰でもできるような行為ではあまり意味がありません。肉体的・精神的な苦痛が伴ったり、難易度が高ければ高いほどその功績を高く評価されます。その結果、仏に近づくことができるかと考えるのです。

「浄土真宗には修行はありません」というのは正解ではありません。正しくは、「浄土真宗では、修行によって仏に成るのではありません」ということです。

難易度の高い行為、普通の人ではできないことを行うということは、素晴らしいこと

でしょう。皆さんも、寝ない、食べない、横にならない、寒さ、や暑さとたたかうことがどんなに辛いことかは理解できると思います。

普通の人になかなかできない行を成し遂げた人しか救われないという教えもあります。これは常にピラミッドの頂点を目指すような生き方です。

## 浄土真宗に修行はないのですか？

浄土真宗はこのような生き方を否定しているではありません。苦行を達成した人や常に上昇を目指している人に対しては敬意を表すべきでしょう。

大切なことは、この私がどこに位置しているかということと考えるということです。

仏教の大前提に、「人間はすべて救われていくべき存在である」という教えがあります。もしそうなら、この私にとってどのような教えが必要で、どの

ような教えなら大切にできるのかということを選びとっていくかというのが浄土真宗の考え方です。浄土真宗は、「修行」によって仏に成るのであり

ません。日常生活を送りながら、仏の教えに耳を傾け、この世の出来事

に対して常に疑問を持ち続けることによって仏に成っていく教えなのです。

皆さんは、苦行をとるか、教えに耳を傾けることを取るかどうかでしょう。

(山崎龍法)

